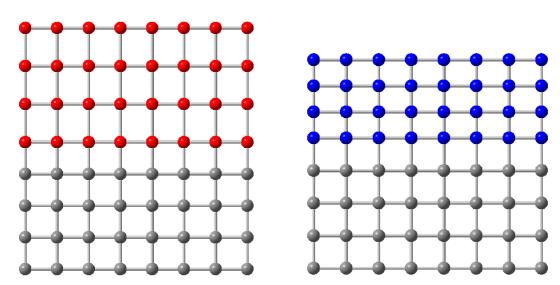
結晶工学特論 第3回目

前回の内容

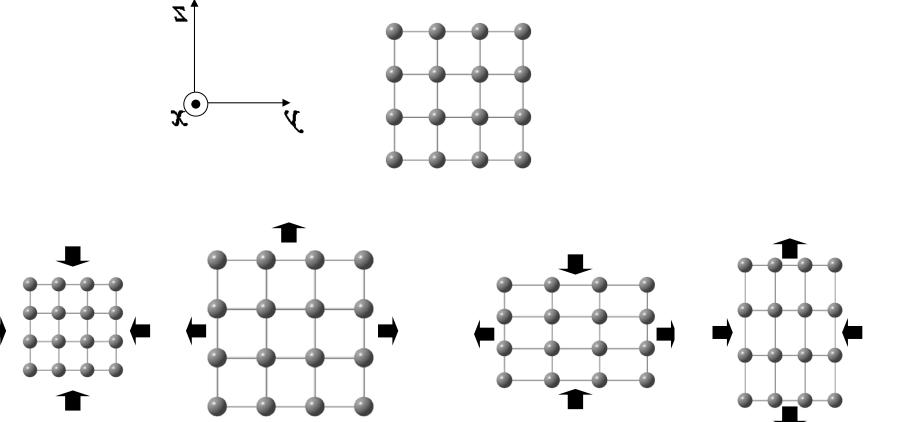
- 1. 格子歪
 - 結晶の歪
 - 歪、応力、歪エネルギーの定義
 - 不整合歪(基板と成長層の格子不整合に起因する歪)
 - 熱歪(成長温度から室温に下げるとき、基板と成長層の 熱膨張係数の差によって発生する歪)



今日の内容

- 1. 格子欠陥
 - 転位、積層欠陥
- 2. ミラー指数
 - 結晶の方位、面の表現方法

半導体結晶でよく取り扱う歪



静水圧歪

$$\varepsilon_{xx} = \varepsilon_{yy} = \varepsilon_{zz}$$

1軸異方性歪

$$\varepsilon_{xx} = \varepsilon_{yy} \neq \varepsilon_{zz}$$

エピタキシーにおける歪

•成長層(epitaxial layer)と基板(substrate)の組み合わせによって、成長層が歪むかどうかが決まる

•epi とsubが同じ場合(homo-epitaxy)

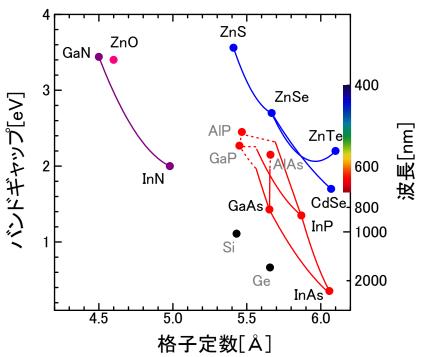
例: GaAs/GaAs, GaP/GaP, Si/Si

歪は生じない

•epiとsubが違う場合(hetero-epitaxy)

例: InGaAs/GaAs, GaN/Al₂O₃, SiGe/Si

歪が発生

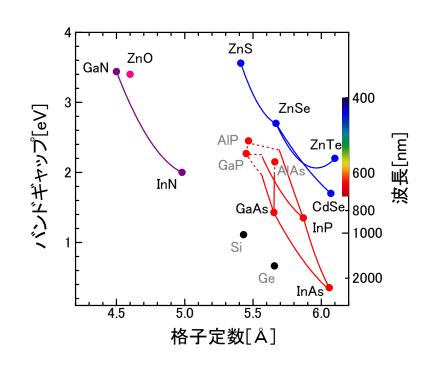


ヘテロエピタキシーにおける歪の原因

- 格子不整合歪成長層と基板の格子定数が異なる
- •熱歪

成長層と基板の熱膨張係数が異なる





- •ヘテロエピタキシーでは基板の選択が重要
- •どちらも1軸異方性歪(成長層と基板の界面は2次元)

ヘテロエピタキシーにおける成長層の歪

成長層

 $(\sim 10 \mu m)$

基板

 $(\sim 500 \mu m)$

厚さの違いにより、

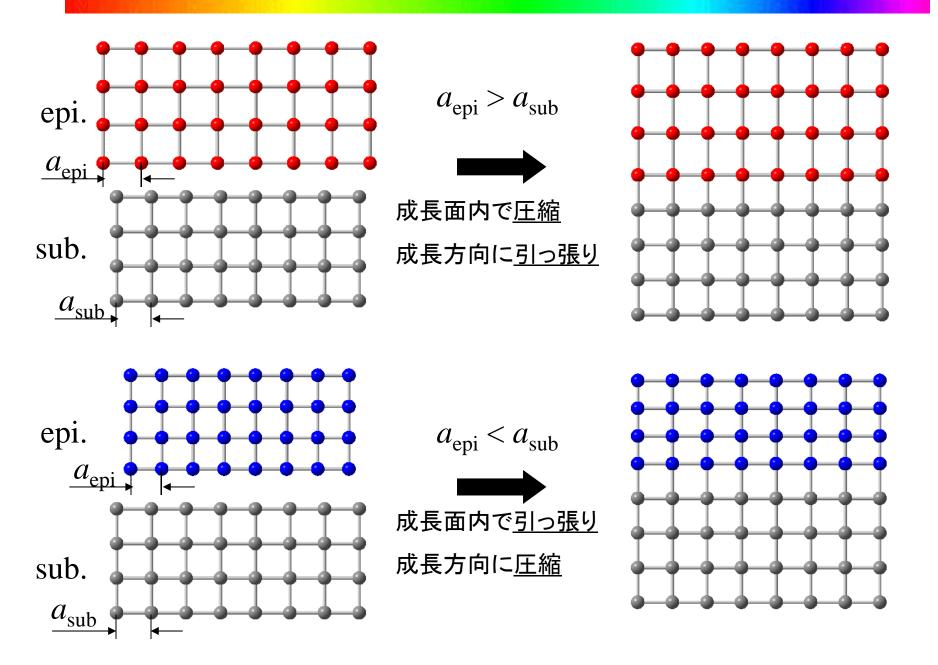
成長層 → 歪む

基板 → 歪まない

と考えるのが一般的

基板が成長層と同じくらい薄くなると、 基板も歪む

1軸異方性歪



熱による格子定数の変化(格子定数の温度依存性)

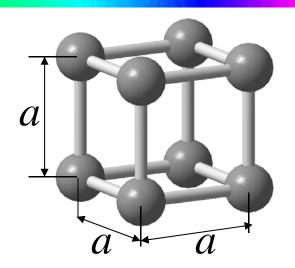
$$a(T) = a_{RT} \{ 1 + \alpha (T - 300) \}$$

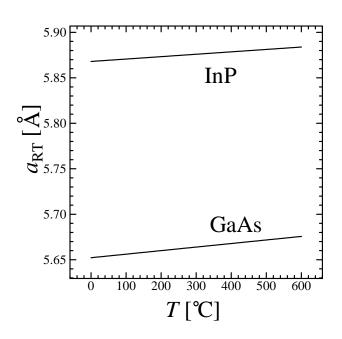
$$a(T) - a_{RT}$$

$$\alpha = \frac{a_{\rm RT}}{T - 300}$$

熱膨張係数

	GaAs	InP
$a_{\mathrm{RT}}[\mathrm{\AA}]$	5.6533	5.8687
$\alpha[K^{-1}]$	6.9×10^{-6}	4.5×10^{-6}





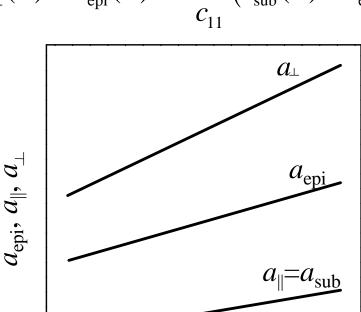
熱による格子間隔の変化(歪成長の場合)

成長面内

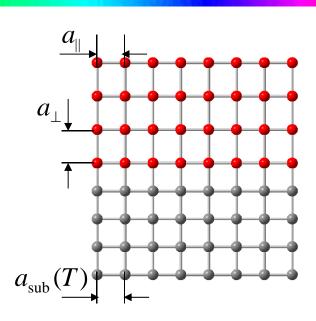
$$a_{\parallel}(T) = a_{\text{sub}}(T)$$
$$= a_{\text{sub,RT}} \left\{ 1 + \alpha_{\text{sub}} \left(T - 300 \right) \right\}$$

成長方向

$$a_{\perp}(T) = a_{\text{epi}}(T) - 2\frac{c_{12}}{c_{11}} \left(a_{\text{sub}}(T) - a_{\text{epi}}(T) \right)$$



T



$$\left.egin{aligned} a_{
m epi} > a_{
m sub} \ lpha_{
m epi} > lpha_{
m sub} \end{aligned}
ight\}$$
 のとき

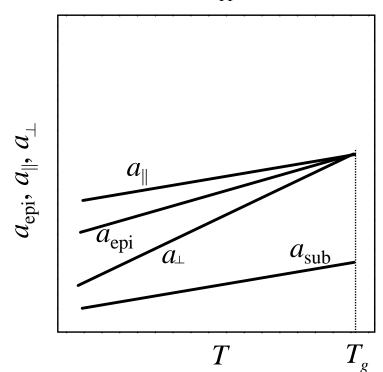
熱による格子間隔の変化(成長温度で緩和し、降温する場合)

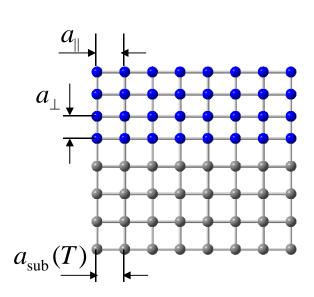
成長面内

$$a_{\parallel}(T) = a_{\text{epi}}(T_g) \left\{ 1 + \alpha_{\text{sub}} \left(T - T_g \right) \right\}$$

成長方向

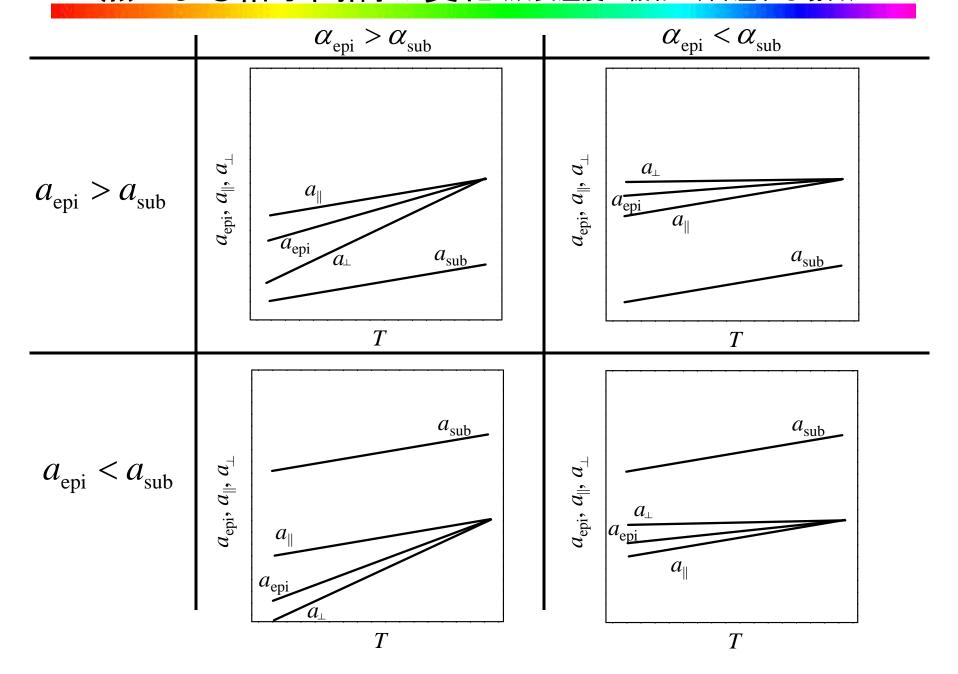
$$a_{\perp}(T) = a_{\text{epi}}(T) - 2\frac{c_{12}}{c_{11}} (a_{\parallel}(T) - a_{\text{epi}}(T))$$





$$\begin{vmatrix} a_{
m epi} > a_{
m sub} \\ lpha_{
m epi} > lpha_{
m sub} \end{vmatrix}$$
 のとき

熱による格子間隔の変化(成長温度で緩和し、降温する場合)



歪の緩和

- •3次元成長
- •転位 (dislocation)
- •クラック

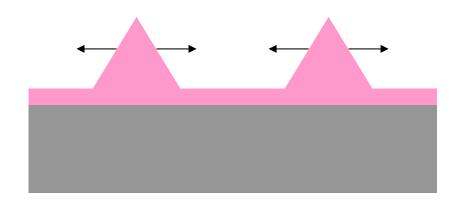
3次元成長

2次元成長

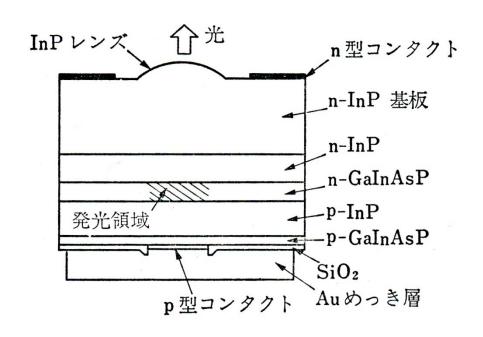
成長面内に応力が生じる

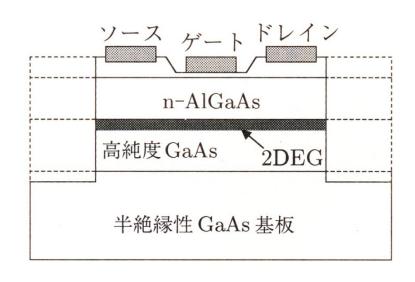
3次元成長

島の表面では表面方向に原子が動けるので歪エネルギーが低減できる



デバイスの構造

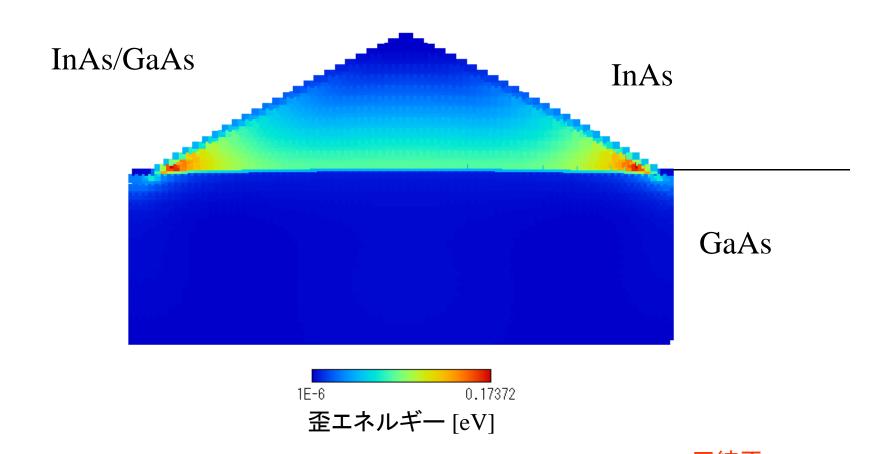




HEMT

LED

3次元成長部の歪エネルギー



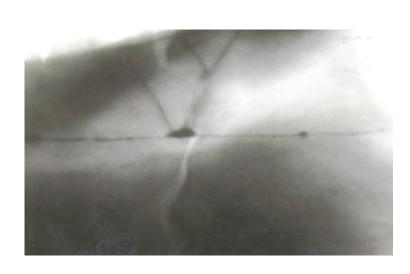
	GaAs	InAs
格子定数[Å]	5.653	6.06

InAsが受ける歪は 圧縮歪
$$\varepsilon = \frac{a_{\rm GaAs} - a_{\rm InAs}}{a_{\rm InAs}} = -6.7\%$$

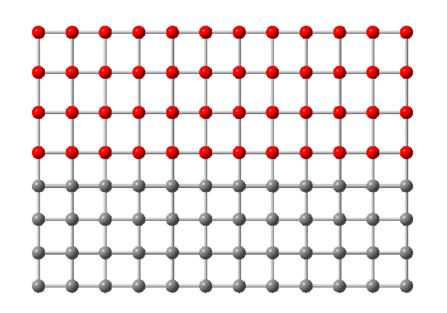
3次元成長を利用した量子ドットの形成

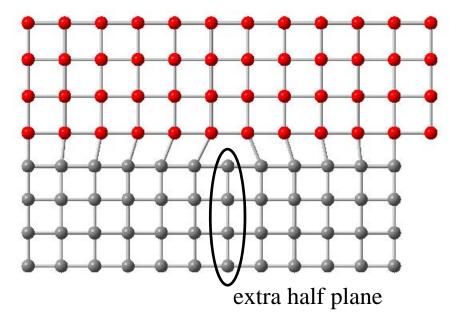
1ML 2ML
AFM像

断面TEM像



転位(dislocation)

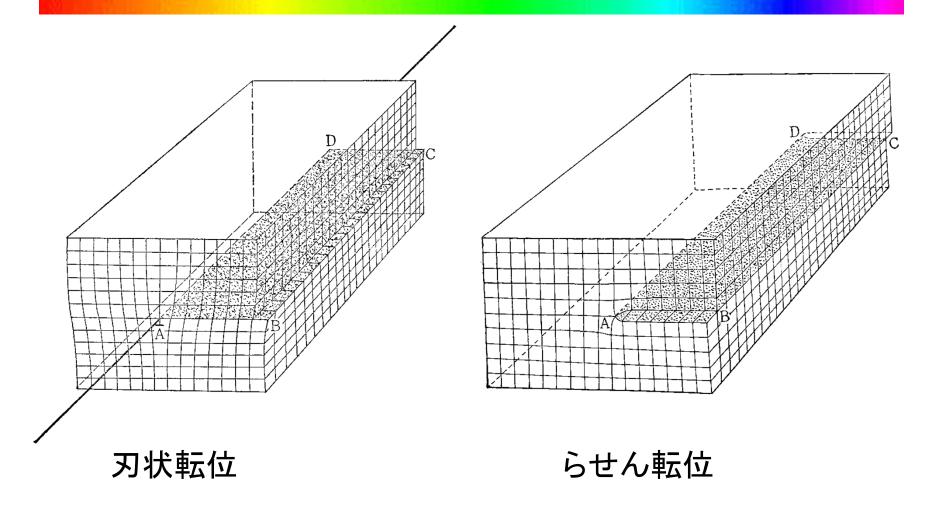




転位がない状態 (歪んでいる) 転位がある状態 (歪は緩和した)

- •原子列が移動することによって、線状の欠陥が形成
- •塑性変形

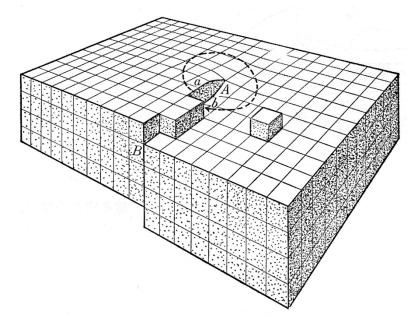
刃状転位(edge dislocation)とらせん転位(screw dislocaton)

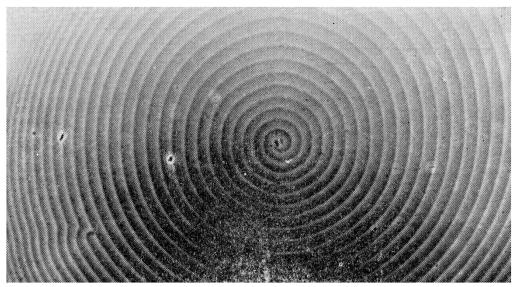


転位の方向と変位の方向が垂直

転位の方向と変位の方向が平行

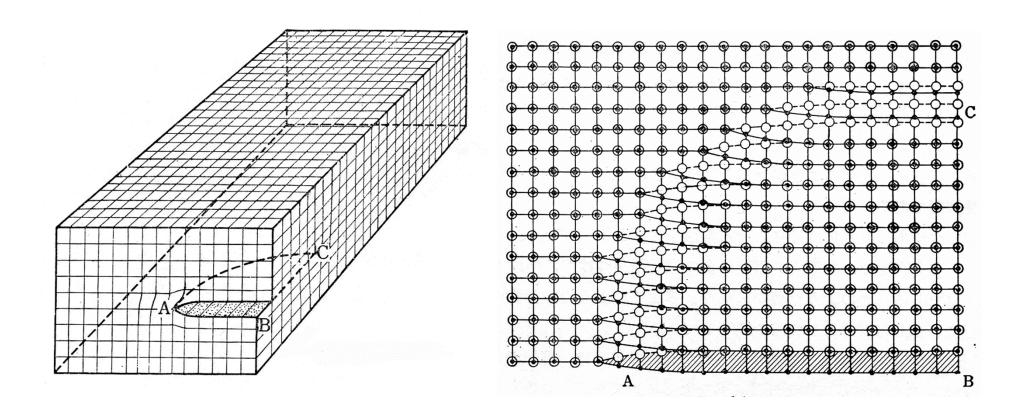
らせん転位によるスパイラル成長





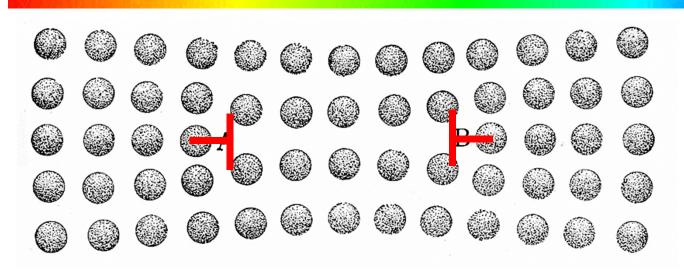
SiC

混合転位

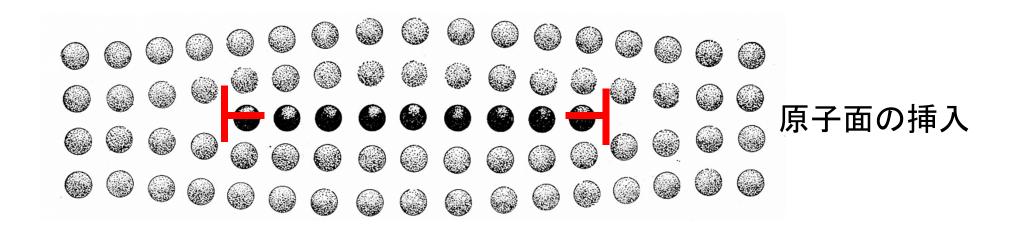


- •Aの部分ではらせん転位
- •Bの部分では刃状転位

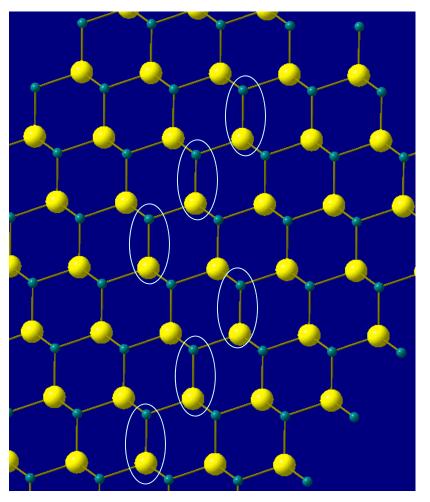
原子面の欠如、挿入による転位

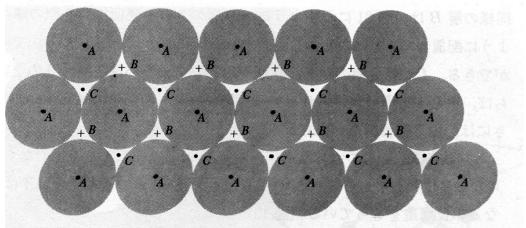


原子面の欠如



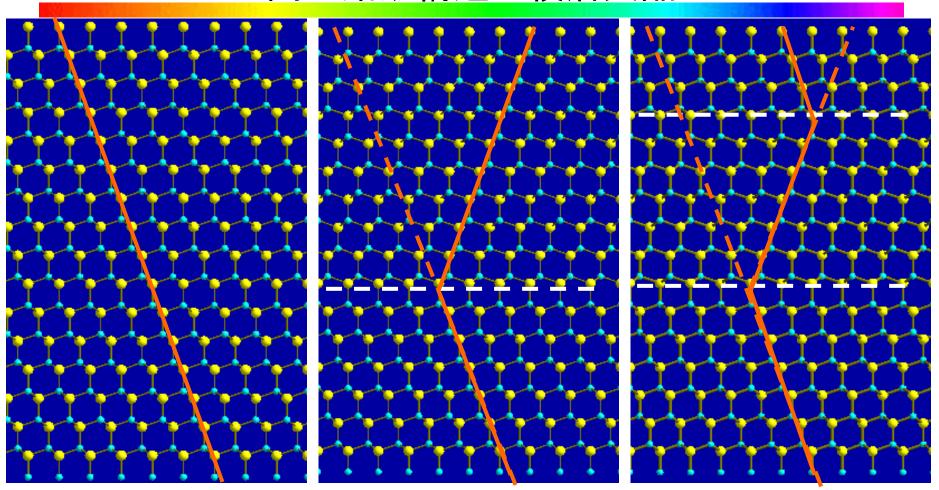
積層欠陥





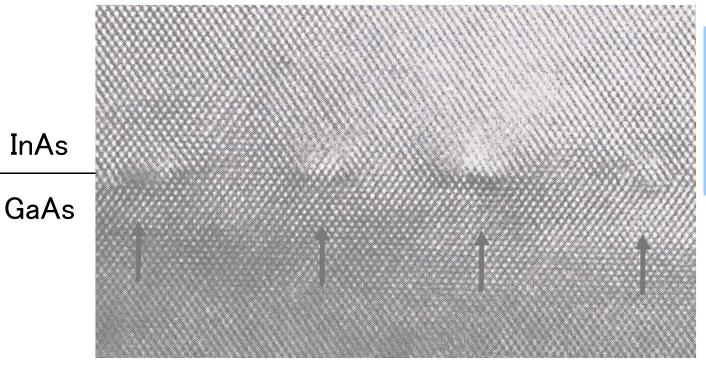
- ·面心立方格子 ABCABCABC••••ABC
- ·六方最密格子 ABABABABAB••••ABAB
- ·積層欠陥を含む場合
 ABCABCBCABCBABC
 ABCABCABCABCABCABC

閃亜鉛鉱構造の積層欠陥



- ·面内で結晶が回転している
- ・でも結合手は過不足なく繋がっている

転位の電子顕微鏡写真(格子像)

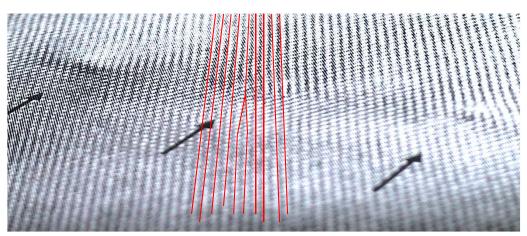


格子定数

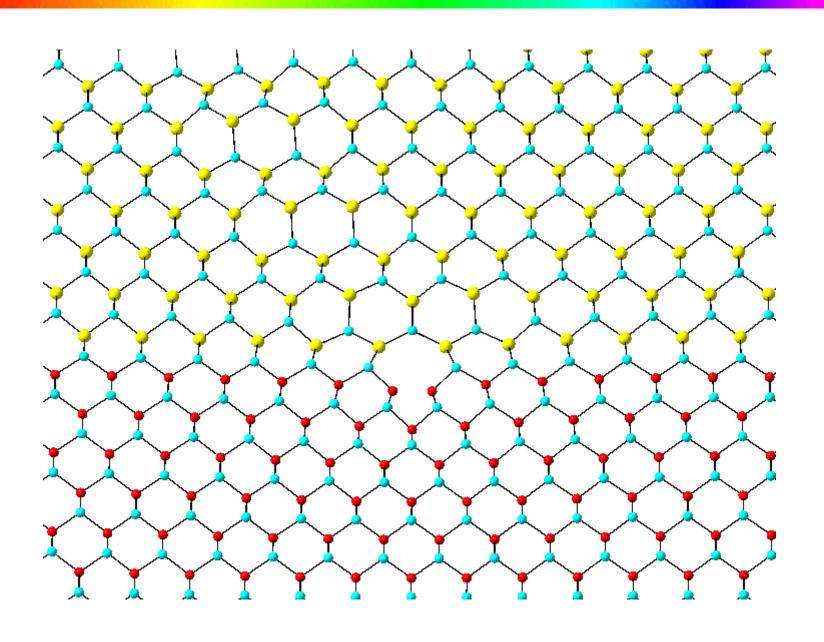
GaAs 5.653 Å InAs 6.07 Å

7%の格子不整合

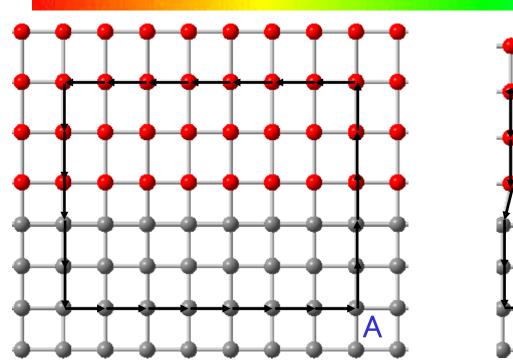
上の写真を 右斜め下から 見たもの

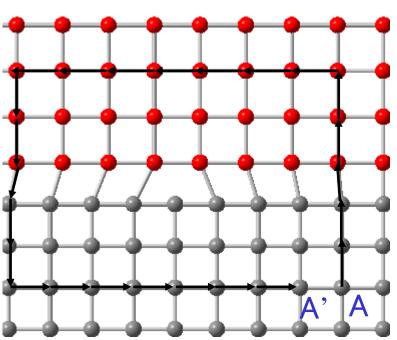


閃亜鉛鉱構造の90°転位



バーガーズベクトル





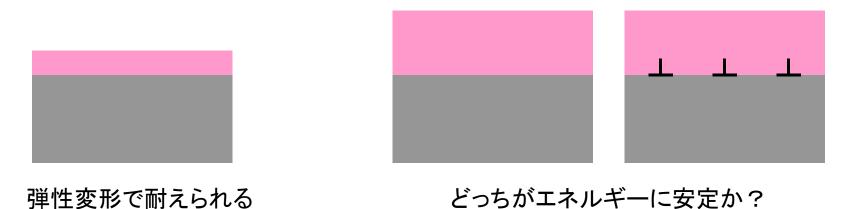
- 1. きれいな結晶で格子点をつないで閉ループをつくる
- 2. 転位を含むようにループを適用
- 3. 始点と終点の差がバーガーズベクトル

$$\mathbf{b} = \overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OA}'$$
 $\sharp t$ $\mathbf{b} = \overrightarrow{OA}' - \overrightarrow{OA}$

バーガーズベクトルは転位による原子位置の変位を表す

臨界膜厚

- 歪エネルギーは成長層の厚さに比例
- •ある一定の膜厚以上では転位によって歪が緩和



臨界膜厚(critical thickness) ・・・ 転位が発生する膜厚

臨界膜厚の計算モデル

•force balance model

J.W. Matthews and A.E. Blakeslee, J.Crystal Growth 116, 118(1974)

基板からの貫通転位が歪による応力で曲げられ、界面に平行になるかどうか

•energy balance model

R. People and J.C. Bean, Appl. Phys. Lett. **47**, 322(1985)

転位があるときとないときの歪エネルギーの大小

結晶面の指数

(hkl)面とは・・・

a₁方向に1/h,

a,方向に1/k,

a3方向に1/l,

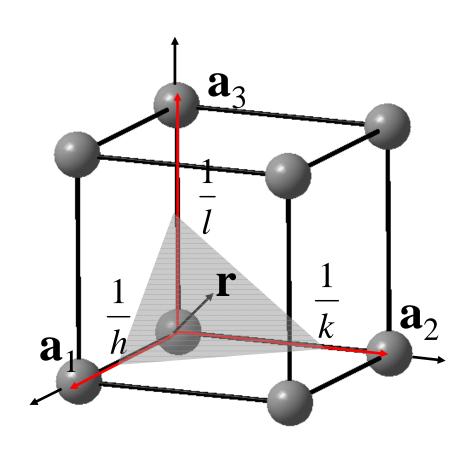
で定義される3点を含む平面

[hkl]方向とは・・・

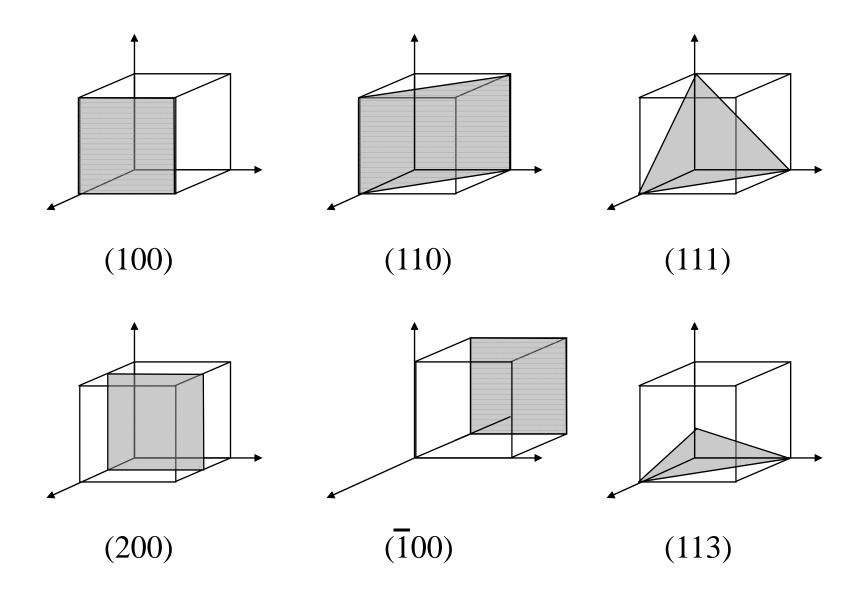
$$\mathbf{r} = h\mathbf{a}_1 + k\mathbf{a}_2 + l\mathbf{a}_3$$

ベクトルrの方向

|r|に意味はない



[hkl]方向と(hkl)面は垂直(立方晶の場合)



括弧(かつこ)の定義

面を表す場合

 $\{hkl\}$ $\rightarrow (hkl)$ と等価な面をまとめて表す場合 $\{100\} = (100), (010), (00\overline{1}), \cdots$

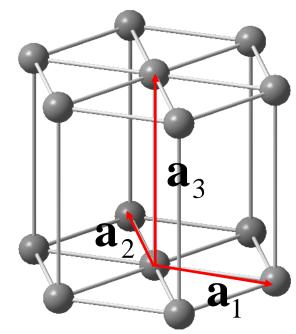
方向を表す場合

[hkl]

<hkl>→ <hkl>と等価な方向をまとめて表す場合 <100> = [100],[010],[001],••••

六方晶の場合

底面だけで3個、高さ方向に1個 の指数を用いる



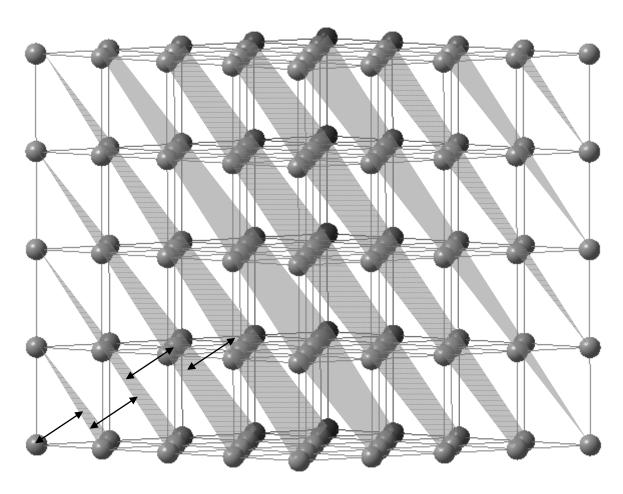
平面上で独立なベクトルは2個しかないので、 3番目の指数は独立ではない

$$\begin{array}{cccc}
(h & k & -h-k & l) \\
(h & k & \bullet & l) \\
(h & k & l)
\end{array}$$

さまざまな表記法がある

面間隔

(111)面の場合



各面間の間隔 = 原点と原点に最も近い面までの距離

面間隔

$$d_{hkl} = \frac{2\pi}{|\mathbf{G}|} \qquad \text{t-til} \quad \mathbf{G} = h\mathbf{b}_1 + k\mathbf{b}_2 + l\mathbf{b}_3$$

$$\mathbf{b}_1 = 2\pi \frac{\mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3}{\mathbf{a}_1 \cdot \mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3} \quad \mathbf{b}_2 = 2\pi \frac{\mathbf{a}_3 \times \mathbf{a}_1}{\mathbf{a}_1 \cdot \mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3} \qquad \mathbf{b}_3 = 2\pi \frac{\mathbf{a}_1 \times \mathbf{a}_2}{\mathbf{a}_1 \cdot \mathbf{a}_2 \times \mathbf{a}_3}$$

立方晶の場合

$$d_{hkl}^2 = \frac{a^2}{h^2 + k^2 + l^2}$$

六方晶の場合

$$d_{hkl}^{2} = \frac{a^{2}}{\frac{4}{3}(h^{2} + k^{2} + hk) + \left(\frac{a}{c}\right)^{2}l^{2}}$$

今日の内容

1. 格子欠陥

- 3次元成長
- 積層欠陥
- 転位(刃状転位、らせん転位、バーガーズベクトル)

2. ミラー指数

- 結晶面の指数
- 括弧の定義
- 六方晶の場合